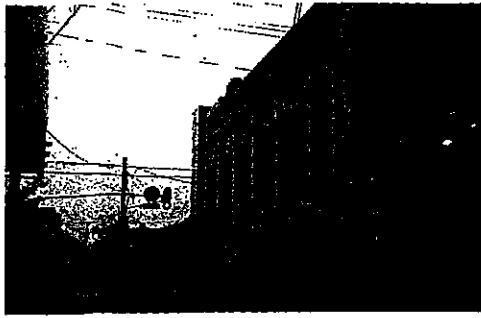


本格的に中心市街地の活性化を



中心市街地の活性化策を示した米沢市

文化交流拠点整備による交流促進

公共事業を積極的に配置していく

米沢市議会総務文教常任委員会協議会が6日開かれ、中心市街地活性化基本計画策定の基本的な考え方(案)が示された。これによると、文化が薫るまち、城下町らしいまち、市民が活発に交流するまちを将来像として掲げ、文化交流拠点整備による交流促進などの事業に着手していくことになっている。

これまで中心市街地は具体的な進展がないまま経過してきた。この間の空洞化も進み、中心市街地の活性化まちづくりが市の最大の課題となっていた。この現状を踏まえ、公共事業を積極的に配置した中心市街地のまちづくりを先行させることにより、民間活力の誘致を促し、にぎわい創出などを目指した

視点を方向転換することとしている。方向性を明確にし、活性化のために様々な事業を展開していく。

事業の一つの「文化交流拠点施設」について

は、新図書館と市民ギャラリーの合築整備により、既存の市民文化会館やまちの広場を含め、中心部に文化交流拠点を整備することとしている。特に新図書館はシン

ポル施設として、男女問わず広く市民の利用があり、また、まちなかの気軽な居場所となる公共空間づくりを目標としていくとしている。新図書館と市民ギャラリーは現在のところ、ポポロビルを再整備し利用したいとしている。また、都市機能の充実などによる交流促進事業については、中心部住民のコミュニティ振興として「中部コミュニティセンター」の建設、市営駐車場の建て替えなどをあげている。中部コミュニティセンターについては、現在の興譲小学校と併設型

を予定している。ポロ西側の市道は一方通行を解除し、対面通行にしていくことなどの考えが出された。これらについては、委員からは「平和通りの一方通行解除が以前から叫ばれていたが、一向に進展していない」「学校がコミュニティセンターと併設になると学校へも行き来が自由になり、危険もあるのでは」といった質問もあった。市は「平和通りは幅員が狭く道路幅を確保するのは困難。アーケードもあり、今回の計画では手を加えない考えだ」「コミュニティセンター建設に至っては地元住民と話し合いを行いながらやっていきたい」と述べた。

米沢市、国のまちづくり三法に沿って中心市街地活性化基本計画の案をまとめる

米沢市は、国のまちづくり三法に沿って中心市街地活性化基本計画の案をまとめる。26日、米沢市議会総務文教常任委員会が報告した。2010年度から5カ年計画で、文化や歴史を重視した施設整備とまちづくりに取り組む。米沢市議会常任委員会で報告した。2010年度から5カ年計画で、文化や歴史を重視した施設整備とまちづくりに取り組む。米沢市議会常任委員会で報告した。2010年度から5カ年計画で、文化や歴史を重視した施設整備とまちづくりに取り組む。米沢市議会常任委員会で報告した。

施設整備、文化や歴史重視

米沢市は、国のまちづくり三法に沿って中心市街地活性化基本計画の案をまとめる。26日、米沢市議会総務文教常任委員会が報告した。2010年度から5カ年計画で、文化や歴史を重視した施設整備とまちづくりに取り組む。米沢市議会常任委員会で報告した。2010年度から5カ年計画で、文化や歴史を重視した施設整備とまちづくりに取り組む。米沢市議会常任委員会で報告した。